

【23_159思考系メルマガ】建値に移動するタイミングと基準

〇〇さん

こんにちは、クロです。

今回は、あるフォロワーさんから頂いた質問をテーマにしたいと思います。

何年か前にメルマガで似たようなテーマを扱った記憶がありますが(笑)

『建値移動』についてです。

▼質問の詳細はコチラ▼

https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/others/2023-06-08.png

まず、いつもメルマガも読んでいただいております。

質問にも書かれている通り、取る手法が違えばそれに対して建値に移動するルールの最適条件も変わってくるので

あくまで僕のやり方は参考程度に捉えておいていただくしかないのですが

どんな方法をとるとしても、そもそも『建値に置く』という行為をどういった目的で行うかを正確に認識することが重要になります。

言うまでもないことかもしれませんが、ストップを建値に置くというのは

その目的は『損切りになる確率を少しでも減らすこと』にあります。

単純に考えて、含み益を建値に移動しさえしておけば、自分が予定していた利確位置まで無事到達すれば利益になるし

そうならず、ボラが出なかったり含み益の途中で逆行が強くなっても、買値(売値)で決済する設定になっているので

悪くても引き分けで手を引くことができる、というのが建値移動をする目的であり、機能であると言えます。

ですが、一方で損切り位置を建値に移動したことで、ポジションが消失してから利確目標に到達してしまったり

というケースもどこかで必ず出てきますから、そのような結果も含めて自分が納得できていないと建値移動のルールを有効に活用することができません。

であればどうするのかというと、これも地道なデータの積み重ねを求められることになりますが損切りを最初に置いたまま動かさない場合と、途中で損切りを建値に移動した場合とで『どちらがトータル収支で見た時に、利回りが多くなるか』で比較することです。

僕も例にもれず、一定のpips幅で含み益になったら建値に移動する事を徹底していて今は損切幅と等倍分だけ順行したら、建値に移動するとルールとして定めています。

これも、建値移動のタイミングを何パターンか場合分けして、年間通して利回りのもっともよい条件を確認してから採用しています。

かなり面倒な検証作業ではありますが、建値移動のポジションコントロールは決して万能ではなく先ほども書いたように、「建値に移動しなければ勝てていた」というトレードも、個々のトレードの結果として必ず出てきます。

その時に、そうなったとしてもその結果を受け容れて一貫した『建値移動ルール』を実践した方がそうしなかった時よりも『トータル収支はもっとよくなる』と、検証の結果明らかになっているからこそ

その結果を信頼して一貫した行動を取ることができるのです。

この確認が不十分だと、個々の結果に注目して不安に感じ

「やっぱり明日から損切りを動かさないようにしよう」とか、自分のやるトレードに一貫性のない事をやってしまいやすくなります。

それを防ぐためにも、自分のルールでそもそも『建値移動』を採用すべきなのか？

やるとしたら、どんな条件で行うのか？

それを過去検証や、FTを使ったテスト、そしてデモトレードでのフォワードテストを駆使して

最も最適な条件をデータとして集める努力を欠かさないようにしてみてください。

最初は本当に面倒くさく感じるかもしれませんが、このような地道なデータの積み重ねは、後々必ず自分を楽にしてくれます。頑張りましょう。